

DERWENT-ACC-NO: 2003-536340
DERWENT-WEEK: 200351
COPYRIGHT 2008 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Deodorizer cosmetics for preventing body odor and axillary smell,
comprises 1,2-alkane diol as essential component

INVENTOR: KANEHISA S; KOBAYASHI A ; OKADA F ; OKAMOTO H

PRIORITY-DATA: 2001JP-273260 (September 10, 2001)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
<u>JP</u>	March	JA
<u>2003081801</u>	19, 2003	
<u>A</u>		

INT-CL-CURRENT:

TYPE	IPC	DATE
CIPP <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/00</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/24</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/26</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/27</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/33</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/34</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/40</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/42</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/43</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/46</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>K</u> <u>8/97</u>		20060101
CIPS <u>A61</u> <u>Q</u> <u>15/00</u>		20060101

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 2003081801 A
BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - Deodorizer cosmetics for preventing body odor, comprises 1,2-alkane diol.

USE - As deodorizer for preventing body odor and axillary smell.

ADVANTAGE - The deodorizer has an excellent body odor prevention effect for an extended period of time.

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 2003081801 A
EQUIVALENT-ABSTRACTS:

ORGANIC CHEMISTRY

Preferred Components: The cosmetic further comprises antiperspirant, microbicide and/or deodorizer. The antiperspirant is aluminum chloride, aluminum potassium sulfate, aluminum sulfate, aluminum acetate, chloro hydroxy aluminum, allantoin chloro hydroxy aluminum and/or para zinc phenolsulfonate. The microbicide is benzalkonium chloride, benzethonium chloride, trichlorcarbanilide, chlorhexidine hydrochloride, isopropyl methyl phenol, triclosan and/or chlorhexidine gluconate. The deodorizer is zinc oxide, alkyl di ethanol amido, hydroxyapatite, tea extract, fragrance and/or antioxidant. 1,2-alkane diol is 5-11C 1,2-alkyl diol, which is 1,2-pentanediol, 1,2-hexanediol and/or 1,2-octane diol.

Liquid deodorizer was prepared by compounding (in weight%) para zinc phenolsulfonate (2), ethanol (60), 1,3-butylene glycol (3), triclosan (0.1), polyoxyethylene hydrogenated castor oil (0.5), 1,2-hexanediol (1.5), fragrance and purified water (sufficient quantity). The deodorizer had an excellent deodorizing effect and stability.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2003-81801
(P2003-81801A)

(43) 公開日 平成15年3月19日 (2003.3.19)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード*(参考)
A 6 1 K	7/32	A 6 1 K	7/32
	7/36		7/36
	7/38		7/38

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2001-273260(P2001-273260)

(22) 出願日 平成13年9月10日 (2001.9.10)

(71) 出願人 390011442

株式会社マングラム

大阪府大阪市中央区十二軒町5番12号

(72) 発明者 岡本 裕也

大阪市中央区十二軒町5番12号 株式会社
マングラム中央研究所内

(72) 発明者 小林 亜紀

大阪市中央区十二軒町5番12号 株式会社
マングラム中央研究所内

(72) 発明者 岡田 文裕

大阪市中央区十二軒町5番12号 株式会社
マングラム中央研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 防臭化粧料

(57) 【要約】

【課題】 腋臭などの体臭に優れた防臭・消臭効果を有するとともに、しかもその効果を長時間持続することのできる防臭化粧料を提供することにある。

【解決手段】 1, 2-アルカンジオール、好ましくは炭素数5~11の1, 2-アルカンジオール、より好ましくは1, 2-ペンタンジオール、1, 2-ヘキサンジオール、1, 2-オクタンジオールのうちから選ばれる1種以上の1, 2-アルカンジオールと、制汗剤、殺菌剤、防臭剤などの体臭防止用薬剤を含有することを特徴とする防臭化粧料とする。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 1, 2-アルカンジオールおよび体臭防止用薬剤を含有することを特徴とする防臭化粧料。

【請求項2】 前記体臭防止用薬剤が、制汗剤、殺菌剤、防臭剤のうちから選ばれる1種以上であることを特徴とする請求項1に記載の防臭化粧料。

【請求項3】 前記制汗剤が、塩化アルミニウム、硫酸アルミニウムカリウム、硫酸アルミニウム、酢酸アルミニウム、クロロヒドロキシアルミニウム、アラントインクロロヒドロキシアルミニウム、パラフェノールスルホン酸亜鉛のうちから選ばれる1種以上であることを特徴とする請求項2に記載の防臭化粧料。

【請求項4】 前記殺菌剤が、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、ハロカルバン、トリクロロカルバニリド、塩酸クロルヘキシジン、イソプロピルメチルフェノール、トリクロサン、グルコン酸クロルヘキシジンのうちから選ばれる1種以上であることを特徴とする請求項2に記載の防臭化粧料。

【請求項5】 前記防臭剤が、酸化亜鉛、アルキルジエタノールアミド、ヒドロキシアパタイト、茶抽出物、香料、酸化防止剤のうちから選ばれる1種以上であることを特徴とする請求項2に記載の防臭化粧料。

【請求項6】 前記1, 2-アルカンジオールが炭素数5～11の1, 2-アルカンジオールであることを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の防臭化粧料。

【請求項7】 前記1, 2-アルカンジオールが、1, 2-ペンタンジオール、1, 2-ヘキサンジオール、1, 2-オクタンジオールのうちから選ばれる1種以上であることを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の防臭化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は防臭化粧料に関し、詳しくは、腋臭などの体臭に優れた防臭・消臭効果を有するとともに、しかもその効果を長時間持続することのできる防臭化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】人に不快感を与える腋臭、足臭、頭皮臭、汗臭などの体臭は、汗が皮脂と混ざり、それが皮膚常在菌により分解されることにより生じるとされている。また、皮脂由来の油性成分が酸化されることにも起因しているとされている。これら体臭を抑えるために、従来の防臭化粧料には、制汗剤や殺菌剤などを配合する試みがなされたり、また、発生した体臭を抑制するために、香料によるマスキングや物理的吸着による臭気物質の除去などの試みがなされている。さらには、酸化防止剤により皮脂の酸化抑制による防臭・消臭の試みもなされている。しかし、従来の防臭化粧料は、塗布した直後はその効果を発揮するものの、汗によりこれら成分が流れ落ち、持続的な防臭・消臭効果は満足いくものではな

かった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記実情に鑑み本発明者らが鋭意検討を行った結果、1, 2-アルカンジオールと共に体臭防止用薬剤を配合して防臭化粧料とすると、体臭の防臭・消臭効果の持続性に優れた防臭化粧料が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0004】

【課題を解決するための手段】即ち、請求項1に係る発明は、1, 2-アルカンジオールおよび体臭防止用薬剤を含有することを特徴とする防臭化粧料に関する。請求項2に係る発明は、前記体臭防止用薬剤が、制汗剤、殺菌剤、防臭剤のうちから選ばれる1種以上であることを特徴とする請求項1に記載の防臭化粧料に関する。請求項3に係る発明は、前記制汗剤が、塩化アルミニウム、硫酸アルミニウムカリウム、硫酸アルミニウム、酢酸アルミニウム、クロロヒドロキシアルミニウム、アラントインクロロヒドロキシアルミニウム、パラフェノールスルホン酸亜鉛のうちから選ばれる1種以上であることを特徴とする請求項2に記載の防臭化粧料に関する。請求項4に係る発明は、前記殺菌剤が、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、ハロカルバン、トリクロロカルバニリド、塩酸クロルヘキシジン、イソプロピルメチルフェノール、トリクロサン、グルコン酸クロルヘキシジンのうちから選ばれる1種以上であることを特徴とする請求項2に記載の防臭化粧料に関する。請求項5に係る発明は、前記防臭剤が、酸化亜鉛、アルキルジエタノールアミド、ヒドロキシアパタイト、茶抽出物、香料、酸化防止剤のうちから選ばれる1種以上であることを特徴とする請求項2に記載の防臭化粧料に関する。請求項6に係る発明は、前記1, 2-アルカンジオールが炭素数5～11の1, 2-アルカンジオールであることを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の防臭化粧料に関する。請求項7に係る発明は、前記1, 2-アルカンジオールが、1, 2-ペンタンジオール、1, 2-ヘキサンジオール、1, 2-オクタンジオールのうちから選ばれる1種以上であることを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の防臭化粧料に関する。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明に係る防臭化粧料には、必須成分として1, 2-アルカンジオールおよび体臭防止用薬剤が配合される。本発明に用いられる1, 2-アルカンジオールは、防臭・消臭効果の持続性のために配合され、防臭・消臭の持続性効果を有するものであれば特に限定されないが、炭素数5～11の1, 2-アルカンジオールを用いることが好ましく、なかでも、入手の容易性や防臭・消臭の持続性効果から1, 2-ペンタンジオール、1, 2-ヘキサンジオール、1, 2-オクタンジオールを用いることがより好ましく、1, 2-ヘキサンジオールまたは1, 2-オクタンジオールを用いるこ

とがさらに好ましい。

【0006】1, 2-アルカンジオールの配合量は、本発明の効果を発揮すれば特に限定されないが、化粧品中、0.01～10.0重量%とするとよく、0.1～5.0重量%とすることがより好ましい。なかでも、1, 2-ペンタンジオールを用いる場合には1.0～5.0重量%、1, 2-ヘキサンジオールを用いる場合には0.5～3.0重量%、1, 2-オクタンジオールを用いる場合には0.1～1.0重量%とすることがさらに好ましい。この理由は、0.01重量%未満の配合量では、防臭・消臭効果の持続性の効果がなく、また、10.0重量%を超えて配合すると、原料臭や化粧品への着色の問題が生じる場合があるために、いずれの場合も好ましくないからである。

【0007】本発明で用いられる体臭防止用薬剤とは、腋臭等の体臭の防臭・消臭効果を有する薬剤を意味し、制汗剤、殺菌剤、消臭剤などが含まれる。

【0008】制汗剤は、皮膚を収斂することにより汗の発生を抑制する薬剤であり、例えば、塩化アルミニウム、硫酸アルミニウムカリウム、硫酸アルミニウム、酢酸アルミニウム、クロロヒドロキシアルミニウム、アラントインクロロヒドロキシアルミニウム、パラフェノールスルホン酸亜鉛などを例示することができる。

【0009】殺菌剤は、皮膚常在菌を殺菌・除菌することにより、汗や皮脂の分解を抑制する薬剤であり、例えば、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、ハロカルバン、トリクロロカルバニリド、塩酸クロルヘキシジン、イソプロピルメチルフェノール、トリクロサン、グルコン酸クロルヘキシジンなどを例示することができる。

【0010】消臭剤は、臭いを発する物質と反応・吸着したり、臭いをマスクしたりして、臭いを消す効果を有する薬剤であり、例えば、酸化亜鉛などの金属酸化物、アルキルジエタノールアミド、ヒドロキシアパタイト、茶抽出物、香料、酸化防止剤などを例示することができる。

【0011】尚、上記体臭防止用薬剤の配合量は、その

効果が発揮される量を適宜配合することができる。

【0012】本発明にかかる防臭化粧品には、本発明の効果を損なわない範囲であれば、上記した成分の他に、シリコン類、高級アルコール類、増粘剤、保湿剤、界面活性剤、防腐剤、粉体、ビタミン類などの薬剤、動物及び植物エキス、着色剤、アルコール、水等を適宜配合することができる。

【0013】かくして、本発明の防臭化粧品は、ローション、エアゾール、スティック、パウダー、ロールオン、クリーム、乳液などの形態に用いることができ、製剤化については、一般に知られている製造方法により製造すればよい。

【0014】

【実施例】以下、本発明を実施例に基づき更に詳細に説明するが、本発明はこれらの実施例により何ら限定されるものではない。尚、配合量は重量%である。

【0015】(試料の調製) 表1および表2に記した組成に従い、実施例1～6および比較例1～2の各試料を常法により調製し、下記評価に供した。尚、実施例1～3および比較例1は、デオドラントローションとし、実施例4～6および比較例2は、プレストパウダーとした。

【0016】(防臭効果及びその持続性の評価) 腋臭が強いと判定された男子被験者5名に対して下記の試験を行った。即ち、実施例1～6および比較例1～2の各防臭化粧品を被験者の一方の腋下に塗布し、もう一方の腋下は対照として塗布しなかった。塗布前とその直後、4時間後、12時間後に下記評価基準に従って臭いの判定をし、その平均値を採用した。結果を表1～2に示す。

30 (評価基準)

臭わない・・・0点
 かすかに臭う・・・1点
 やや臭うが弱い・・・2点
 はっきりと臭う・・・3点
 非常に強く臭う・・・4点

【0017】

【表1】

5

6

	実施例1		実施例2		実施例3		比較例1	
クロロヒドロキシアルミニウム	10.0		10.0		10.0		10.0	
塩化ベンチルアルコール	0.2		0.2		0.2		0.2	
エタノール	60.0		60.0		60.0		60.0	
グリセリン	5.0		5.0		5.0		5.0	
1,2-ヘキサンジオール	3.0		—		—		—	
1,2-ヘキサンジオール	—		2.0		—		—	
1,2-オクタジオール	—		—		0.7		—	
精製水	残分		残分		残分		残分	
	塗布部	対照部	塗布部	対照部	塗布部	対照部	塗布部	対照部
塗布前	3.8	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	4.0
塗布直後	0.8	4.0	1.0	4.0	0.8	3.7	1.2	3.7
塗布4時間後	1.5	3.8	1.7	3.8	1.3	4.0	2.7	3.8
塗布12時間後	2.8	3.8	2.7	3.7	2.3	3.8	3.8	3.8

【0018】

* * 【表2】

	実施例4		実施例5		実施例6		比較例2	
クロロヒドロキシアルミニウム	5.0		5.0		5.0		5.0	
酸化亜鉛	5.0		5.0		5.0		5.0	
タルク	84.0		85.0		86.3		87.0	
流動パラフィン	3.0		3.0		3.0		3.0	
1,2-ヘキサンジオール	3.0		—		—		—	
1,2-ヘキサンジオール	—		2.0		—		—	
1,2-オクタジオール	—		—		0.7		—	
	塗布部	対照部	塗布部	対照部	塗布部	対照部	塗布部	対照部
塗布前	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	4.0
塗布直後	1.3	3.8	1.2	3.8	1.2	3.7	1.8	3.7
塗布4時間後	1.7	3.8	2.0	3.8	1.8	4.0	2.8	3.8
塗布12時間後	2.8	4.0	2.5	4.0	2.3	3.8	3.8	4.0

【0019】表1及び表2の結果から、本発明の防臭化粧料は優れた防臭効果を有するとともに、その効果を長時間持続することが分かる。

【0020】以下、本発明にかかる防臭化粧料の処方例を示す。尚、配合量は重量％である。

【0021】

(処方例1：液体防臭剤)

パラフェノールスルホン酸亜鉛	2.0
エタノール	60.0
1,3-ブチレングリコール	3.0
トリクロサン	0.1
ポリオキシエチレン(50)硬化ヒマシ油	0.5
1,2-ヘキサンジオール	1.5
香料	適量
精製水	残分
合計	100.0

※【0022】(処方例2：消臭スプレー)

エタノール	50.0
1,2-オクタジオール	0.5
LPG	49.5
合計	100.0

40 【0023】(処方例3：パウダースプレー)

クロロヒドロキシアルミニウム	3.0
無水ケイ酸	1.5
シリコン処理タルク	1.5
酸化亜鉛	0.5
トリクロサン	0.01
イソプロピルミリスチン酸エステル	2.14
ジメチルポリシロキサン	1.0
1,2-オクタジオール	0.05
ソルビタン脂肪酸エステル	0.3
LPG	90.0

※50

		(5)	特開2003-81801	
		7	8	
合計	100.0		プロピレングリコール	25.0
【0024】(処方例4:デオドラントスティック)			1, 2-ヘキサンジオール	1.5
ステアリルアルコール	25.0		精製水	1.0
ポリエチレングリコール	10.0		エタノール	残分
クロロヒドロキシアルミニウム	20.0		香料	適量
環状ジメチルポリシロキサン	41.4		合計	100.0
1, 2-ペンタンジオール	3.5		【0026】	
香料	0.1		【発明の効果】	
合計	100.0		以上詳述した如く、本発明にかかる防臭	
【0025】(処方例5:デオドラントスティック)		10	化粧料は、1, 2-アルカンジオールと体臭防止用薬剤	
イソプロピルミリスチン酸エステル	10.0		を含有するものであるから、腋臭などの体臭に優れた防	
ステアリン酸ナトリウム	10.0		臭・消臭効果を有するとともに、しかもその効果を長時	
セタノール	3.0		間持続することのできる防臭化粧料を提供することがで	
			きる。	

フロントページの続き

(72)発明者 兼久 秀典
 大阪市中央区十二軒町5番12号 株式会社
 マンダム中央研究所内

Fターム(参考) 4C083 AA111 AB172 AB212 AB221
 AB222 AB281 AB432 AC012
 AC072 AC102 AC111 AC112
 AC122 AC242 AC352 AC432
 AC442 AC471 AC641 AC691
 AC741 AC791 AC792 AC811
 AC812 AD042 AD152 AD172
 BB41 BB47 BB48 BB51 CC02
 CC17 DD08 DD11 DD17 DD23
 EE18